HP OMi Management Pack for SAP Sybase ASE

ソフトウェアバージョン: 1.00
HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日 : 2015 年 1 月
ソフトウェアリリース日 : 2014 年 9 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows®は、Microsoftグループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=.

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。**https://softwaresupport.hp.com**

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、**https://softwaresupport.hp.com** にアクセスして**[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。**https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels**

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (**https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp**) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (**https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw**) からは、さまざまなベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに 6

このマニュアルで使われている略語 6

関連ドキュメント 7

ライセンス 7

第2章: OMi MP for SAP Sybase ASE のインストール 8

インストールメディア 8

インストールの前提条件 9

ソフトウェア要件 9

BSM サーバでのソフトウェア要件 9

OMi サーバでのソフトウェア要件 10

インストール時のチェックリスト 10

BSM サーバ用チェックリスト 11

OMi サーバ用チェックリスト 12

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール 13

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール 13

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール 14

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール 15

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール 17

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール 19

BSM または OMi での OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 のインストール 19

Linux BSM または OMi サーバの場合 19

Windows BSM または OMi サーバの場合 21

ライセンスの適用 22

OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールの確認 22

特殊な設定 23

クラスタおよびフェイルオーバー環境の設定 24

前提条件 24

ソフトウェア要件 24

タスク 1: OMi MP for SAP Sybase ASE に含まれる XML ファイル 25

タスク 2: クラスタ環境での設定または検出 26

タスク 3: ユーザが作成する XML ファイル 26

Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定 32

第3章: 作業の開始 34

BSM コンソールでの作業の開始 34

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加 34

タスク 2: エンリッチメント ルールの有効化 35

タスク 3: SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイ 35

タスク 4: 検出の確認 37

タスク 5: root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けの OMi MP for SAP Sybase ASE の設定 38

タスク 6: SAP Sybase ASE 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ 39

タスク 6a: SAP Sybase ASE 管理テンプレートの特定とデプロイ 39

タスク 6b: SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ 40

タスク 7: OMi MP for SAP Sybase ASE デプロイメントの確認 42

タスク 8: root 以外のエージェント ユーザ用の SAP Sybase ASE エラーログ監視の設定 42

OMi コンソールでの作業の開始 43

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加 43

タスク 2: エンリッチメント ルールの有効化 43

タスク 3: SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイ 44

タスク 4: 検出の確認 46

タスク 5: root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けの OMi MP for SAP Sybase ASE の設定 47

タスク 6: SAP Sybase ASE 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ 47

タスク 6a: SAP Sybase ASE 管理テンプレートの特定とデプロイ 47

タスク 6b: SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ 49

タスク 7: OMi MP for SAP Sybase ASE のデプロイメントの確認 50

タスク 8: root 以外のエージェント ユーザ用の SAP Sybase ASE エラーログ監視の設定 51

ドキュメントのフィードバックを送信 52

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for SAP Sybase ASE (OMi MP for SAP Sybase ASE) は、HP Operations Manager i (OMi) とともに動作し、Business Service Management (BSM) を使用して SAP Sybase ASE (Adaptive Server Enterprise) データベース環境の監視を可能にします。OMi MP for SAP Sybase ASE には、SAP Sybase ASE サーバの状況やステータスの監視を目的とした以下のコンポーネントが含まれます。

- SAP Sybase ASE 管理テンプレート
- SAP Sybase ASE アスペクト
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- イベント タイプ インジケータ (ETI)
- 状況インジケータ (HI)
- グラフ テンプレート
- ツール

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for SAP Sybase ASE のオンライン ヘルプまたはオンライン ヘルプの PDF 版を参照してください。

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for SAP Sybase ASE DVD
BSM DPS	BSM データ処理サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack

名称	説明
OMi MP for SAP Sybase ASE	HP OMi Management Pack for SAP Sybase ASE

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for SAP Sybase ASE の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンライン ヘルプの PDF 版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに 1 ライセンスを使用します。たとえば、ライセンス パックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス 5 個、OMi MP for Oracle Database のライセンス 10 個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「ライセンスの適用」を参照してください。

第2章: OMi MP for SAP Sybase ASE のインストール

この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールメディアについて説明します。OMi MP for SAP Sybase ASE は OMi MP for SAP Sybase ASE DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for SAP Sybase ASE DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの **[ヘルプ]** メニューで利用できます。 BSM コンソールから、**[ヘルプ]** > **[BSM ヘルプ]** > **[Application Administration]** > **[Operations Management]** > **[OMi Management Pack for SAP Sybase ASE]** に移動します。 OMi コンソールの ? メニューから使用可能。 OMi コンソールから、? **>[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for SAP Sybase ASE]** に移動します。	次の情報を提供します。 • SAP Sybase ASE 管理テンプレートの使用 • SAP Sybase ASE アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用 • インジケータ (HI、ETI) の使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	

ドキュメント	場所	目的
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 • 主要な機能 • インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

ソフトウェア要件

OMi MP for SAP Sybase ASE を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「BSM サーバでのソフトウェア要件」を参照してください。

OMi MP for SAP Sybase ASE を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「OMi サーバでのソフトウェア要件」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降 *
HP Operations Manager i	9.23 以降 *
HP Monitoring Automation	9.23 以降 *
OMi MP for Infrastructure	1.10

注: 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
HP Operations Agent	11.12 以降 *

注 : * サポート マトリックスの詳細は、http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488 を参照してください。

SiteScope サーバ (オプション):

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

OMi サーバ

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降 *
OMi MP for Infrastructure	1.10
OMi MP for SAP Sybase ASE	1.00

注 : 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

管理ノード

コンポーネント	バージョン
HP Operations Agent	11.12 以降 *

インストール時のチェックリスト

OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

OMi MP for SAP Sybase ASE を BSM サーバにインストールする場合は、「BSM サーバ用チェックリスト」を参照してください。

OMi MP for SAP Sybase ASE を OMi サーバにインストールする場合は、「OMi サーバ用チェックリスト」を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

管理対象サーバ

タスク	参照先
BSM のインストールで必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.23 以降のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」および「最新の BSM 9.2x マイナー マイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Operations Manager i Monitoring Automation インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストール」を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行」を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール **注:** OMi MP for SAP Sybase ASE を BSM 9.23 にインストールする場合は、Monitoring Automation 9.23 向けの追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。	「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」の項を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for SAP Sybase ASE 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 のインストール」の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.12 以降のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.12 (HP Operations Agent 11.12 のインストール)」を参照してください。
特殊な設定	「特殊な設定」の項を参照してください。
管理対象ノードでのライブラリパスの設定*	「Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定」の項を参照してください。

* このチェック項目は、Solaris 管理対象ノードのみに適用されます。

OMi サーバ用チェックリスト

管理対象サーバ

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for SAP Sybase ASE 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 のインストール」の項を参照してください。

タスク	参照先
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.12 以降のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.12 (HP Operations Agent 11.12 のインストール)」を参照してください。
特殊な設定	「特殊な設定」の項を参照してください。
管理対象ノードでのライブラリパスの設定*	「Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定」の項を参照してください。

* このチェック項目は、Solaris 管理対象ノードのみに適用されます。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注： BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for SAP Sybase ASE をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新は MPDVD に収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS とBSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS とBSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の `opr-config-content-server.war` ファイルのバージョンをチェックします。

   Linux の場合：

   ```
   cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
   ```

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
   ```

   Windows の場合：

   BSM がインストールされているドライブに移動します。

   ```
   cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

   ```
   cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
   ```

注： バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

   Linux の場合：

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
   ```

   Windows の場合：

   ```
   %TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
   ```

3. 次のフォルダにある既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

   Linux の場合：

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合：

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

opr-config-content-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-content-server.war を次のフォルダにコピーします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
   ```

   Windows の場合:

   ```
   cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
   ```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
   ```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

   Linux の場合:

   ```
   cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
   ```

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
   ```

   Windows の場合:

   BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps

cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が09.23.174より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が09.23.174以上である場合は、現在のBSMインストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWSで実行中のBSMサービスを停止します。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
   ```

3. 次のフォルダにある既存の `opr-config-server.war` ファイルをバックアップします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

   `opr-config-server.war` ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. `HPOprMA_update.zip` を一時フォルダに展開し、`opr-config-server.war` を次のフォルダにコピーします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しいwarファイルをデプロイします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
   ```

   Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
   ```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS とBSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の `opr-config-server.war` のバージョンをチェックします。

   Linux の場合:

   ```
   cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
   ```

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
   ```

   Windows の場合:

   BSM がインストールされているドライブに移動します。

   ```
   cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

   ```
   cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
   ```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
   ```

   Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

   opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HPBSM/opr/webapps
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
   ```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
   ```

   Windows の場合:

   ```
   cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
   ```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

   Linux の場合:

   ```
   /opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
   ```

   Windows の場合:

   ```
   %TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
   ```

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

BSM または OMi での OMi MP for SAP Sybase ASE バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for SAP Sybase ASE を BSM サーバ (Linux または Windows) または OMi サーバ (Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for SAP Sybase ASE を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for SAP Sybase ASE がすべての BSM サーバ (BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、**[管理]** > **[セットアップと保守]** > **[サーバデプロイメント]** に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP Sybase ASE を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. `root` ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、umask を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

   例: `mkdir /dvdrom`
4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

   DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。

6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	`./mpinstall.sh -i`	`./mpinstall.sh -i`
英語以外の DVD	`./mpinstall.sh -i`	`./mpinstall.sh -i -locale <mplocale>`

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP Sybase ASE をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

`mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]`

`-i` : Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h|-help`: ヘルプメッセージを表示します。

`<MP ロケール>` は次のように指定できます。

- `zh_CN`: 簡体中国語ロケール
- `ja`: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for SAP Sybase ASE はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP Sybase ASE のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP Sybase ASE を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。

2. コマンドプロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

   ```
   cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
   ```

   次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	`cscript /nologo mpinstall.vbs -i`	`cscript /nologo mpinstall.vbs -i`
英語以外の DVD	`cscript /nologo mpinstall.vbs -i`	`cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール>`

   例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP Sybase ASE をインストールするには、次のコマンドを実行します。

   ```
   cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
   ```

   注: 次のコマンドオプションを使用できます。

   `cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]`

   `-i`: Management Pack をインストールします。

   `-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

   `-h|-help`: ヘルプメッセージを表示します。

   `<MP ロケール>` は次のように指定できます。

   - `zh_CN`: 簡体中国語ロケール
   - `ja`: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許

諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP Sybase ASE のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「ライセンス」を参照してください。

新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

   BSM で **[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[セットアップと保守]** > **[ライセンス管理]** をクリックします。

   OMi では、**[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理]** をクリックします。

   ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2. をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログボックスを開き、使用する `.dat` ファイルを検索します。

   注: `.dat` ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

   注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ 3 を実行する必要があります。

3. (オプション) ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある **[サーバデプロイメント]** リンクをクリックします。

OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールの確認について説明します。

OMi MP for SAP Sybase ASE のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

  BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[セットアップ]** > **[コンテンツ パック]** をクリックします。

  [コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack forSAP Sybase ASE** が表示されている必要があります。

  OMi では、**[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック]** をクリックします。

  [コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack forSAP Sybase ASE** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

  Linux の場合:

  ```
  /opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh –username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
  ```

  Windows の場合:

  ```
  %TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat –username <BSMusername> -password <BSMpwd> -
  l
  ```

  > **注:** `ContentManager.bat` または `ContentManager.sh` コマンドで、コンテンツ パックの名前とバージョンがリスト表示されます。

> **注:** 次の場所に、BSM GWS とBSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。
>
> **Linux の場合:** `/opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log`
>
> **Windows の場合:** `%TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log`

特殊な設定

この項では、標準的な設定と異なる特殊な設定について説明します。また、クラスタ構成の環境での OMi MP for SAP Sybase ASE の使用についても説明します。これらの設定は管理対象ノード上で実行する必要があります。

クラスタおよびフェイルオーバー環境の設定

OMi MP for SAP Sybase ASE では、フェイルオーバーによってデータベースの可用性が中断されないように構成されたクラスタ環境をサポートできます。同期化されたクラスタ環境では、OMi MP for SAP Sybase ASE の監視でアクティブノード/パッシブノードを有効化/無効化することができます。

クラスタ環境用に OMi MP for SAP Sybase ASE をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. (オプション) OMi MP for SAP Sybase ASE に含まれる XML ファイル (dbspi_sapsybasease.apm.xml) を変更します。
2. インスタンスが動作するすべてのノードで各 SAP Sybase ASE サーバインスタンスを構成し、必要な OMi MP for SAP Sybase ASE 管理テンプレートまたはアスペクトを SAP Sybase ASE CI にデプロイします。
3. OMi MP for SAP Sybase ASE で監視されるインスタンスをクラスタパッケージに関連付ける XML ファイルを作成します。

前提条件

クラスタ対応アプリケーションを監視するには、OMi MP for SAP Sybase ASE では、クラスタグループ内の監視対象リソースにネットワーク名と IP アドレスの両方が含まれている必要があります。

注意: クラスタグループがこれらの要件を満たしていない場合、クラスタノード上の `opcerror` ファイルに以下のエラーが記録されます。

- `クラスタの API 機能を実行できませんでした。エラー コード 1008 が返されました。System Error Number: -1 (ffffffff) - (OpC30-3223)`
- `クラスタ情報を読み込めませんでした。System Error Number:-1 (ffffffff) - (OpC30-3221)`
- `サブエージェント 0 の Application Package Monitor を中断しました。プロセスはシグナル 1 を受け取りました。(OpC30-1041)`

ソフトウェア要件

OMi MP for SAP Sybase ASE は、次に示すクラスタソフトウェアと互換性があります。

- Microsoft クラスタソリューション (MSCS) - Windows
- MC/ServiceGuard - HP-UX ノード
- Veritas - Solaris ノード
- Sun クラスタ - Solaris ノード

タスク1: OMi MP for SAP Sybase ASE に含まれる XML ファイル

OMi MP for SAP Sybase ASE には、Sybase ASE サーバタイプに対する XML ファイル (`dbspi_sapsybasease.apm.xml`) が含まれています。このファイルは、「apminfo.xml ファイルの作成」で作成するファイルと連携して機能します。このファイルでは、管理対象ノード上の OMi MP for SAP Sybase ASE ポリシーテンプレートがすべてリストされます。そのため、非アクティブまたはアクティブな管理対象ノードに応じて、これらのファイルを無効化または有効化できます。

設定では、クラスタ内のあるノードで OMi MP for SAP Sybase ASE を有効にしてデータベースインスタンスを監視し、クラスタ内のその他のノードでは無効のままにするシナリオを記述します。

(オプション) OMi MP for SAP Sybase ASE ファイル (OMi MP for SAP Sybase ASE ポリシーテンプレートのリストを含むファイル) の変更

通常、Sybase ASE サーバタイプに対する OMi MP for SAP Sybase ASE (`dbspi_sapsybasease.apm.xml`) ファイルは、設定なしにすぐに使用できます。ただし、ポリシーテンプレートの名前を変更している場合は、ファイルを変更する必要があります。

この XML ファイルには、無効化または有効化を行うための、すべてのスケジュールタスクとログファイルエントリのポリシーテンプレートのリストが記載されます。これらのポリシーテンプレートは、最後のインスタンスが別のノードに移動されたときだけ無効化されます。開始または停止コマンドは、ノード上で開始または停止されるインスタンスごとに実行されます。

1. 管理対象ノードで、ファイルは次のディレクトリ内に存在します。

   Windows の場合:

   ```
   %OvDataDir%\bin\instrumentation\conf
   ```

   UNIX の場合:

   ```
   /var/opt/OV/bin/instrumentation/conf
   ```

   OMi MP for SAP Sybase ASE ファイルは、データベースタイプに基づいて `dbspi_sapsybasease.apm.xml` という名前が付いています。

2. 必要に応じて、OMi MP for SAP Sybase ASEファイルを変更します。

   変更されていないファイルは、OMi MP for SAP Sybase ASE ポリシーテンプレートのデプロイに合わせて、自動的にデプロイされます。ファイルを変更する場合は、クラスタ内の各ノードに再度デプロイする必要があります。次の例は、`dbspi_sapsybasease.apm.xml` の内容を表しています。

   例 (SAP Sybase ASE の構成を使用):

   ```
   <?xml version="1.0"?>

   <APMApplicationConfiguration xmlns="http://www.hp.com/OV/opcapm/app">

   <Application>

   <Name>dbspi_sapsybasease</Name>

   <Template>SAPSybaseASE_High</Template>
   ```

```
<Template>SAPSybaseASE_Logger</Template>
<Template>SAPSybaseASE_Low</Template>
<Template>SAPSybaseASE_Medium</Template>
<Template>SAPSybaseASE_VeryHigh</Template>
<Template>SAPSybaseASE_ErrorLog</Template>
<Template>SAPSybaseASE_Messages</Template>
<StartCommand>dbspisybcol ON $instanceName</StartCommand>
<StopCommand>dbspisybcol OFF $instanceName</StopCommand>
</Application>
</APMApplicationConfiguration>
```

タスク2: クラスタ環境での設定または検出

クラスタ環境では、OMi MP for SAP Sybase ASE Sybase ASE 検出アスペクトで、データベースインスタンスの可能なすべての場所を検出できない場合があります。また、検出で、クラスタ環境内で使用している仮想名ではなく、物理名のみに基づいてインスタンスの設定とマッピングが行われる場合があります。次のタスクでは、パッケージが移動される可能性のある任意のノードに対して OMi MP for SAP Sybase ASE を設定しデプロイする必要があります。

タスク3: ユーザが作成する XML ファイル

2つ目の XML ファイルは、ユーザが作成し、`apminfo.xml` という名前を付けたファイルです。

このファイルは、OMi MP for SAP Sybase ASE に含まれている XML ファイルと連携して動作し、OMi MP for SAP Sybase ASE で監視するインスタンスとクラスタパッケージとを関連付けることができます。これにより、同一クラスタ内のあるノードから別のノードにパッケージが移動されると、障害の起きたノードでの監視が停止し、新しいノードでの監視が開始されます。

`apminfo.xml` ファイル (クラスタインスタンスを記述するファイル) の作成

次の例は、OMi MP for SAP Sybase ASE サーバインスタンスを表しています。ファイル名は `apminfo.xml` でなければなりません。

1. テキストエディタを使用し、次に示すようにファイルを作成します。

   a. `apminfo.xml` ファイルで、`apm.xml` ファイルのプレフィックスに対応するアプリケーション名を入力します。

      例: `dbspi_sapsybasease`

   b. OMi MP for SAP Sybase ASE で設定したインスタンス名に合わせてインスタンス名を入力しま

す。

アプリケーション名 : dbspi_sapsybasease

インスタンス名 : Sybase サーバの名前 (interfaces ファイルから)

ユーザが作成する XML ファイル (エントリの説明付き)

> **注 :** Sybase の場合、パッケージ名を ServiceGroup の名前に設定する必要があります。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
<Application>
<Name><xml_file name without .xml extension></Name>
<Instance>
<Name><OMi MP for SAP Sybase ASE で監視する SAP Sybase ASE サーバ インスタンスの名前>
</Name>
<Package>< SAP Sybase ASE サーバの最初のインスタンスが実行されるリソース グループ>
</Package>
</Instance>
<Instance>
<Name><OMi MP for SAP Sybase ASE で監視する SAP Sybase ASE サーバ インスタンス #2 の名前>.</Name>
<Package><SAP Sybase ASE サーバの 2 番目のインスタンスが実行されるリソース グループ>
</Package>
</Instance>
</Application>
</APMClusterConfiguration>
```

ユーザが作成する XML ファイル (上記のエントリの説明を置き換えたもの)

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
<Application>
<Name>dbspi_sapsybasease</Name>
<Instance>
```

```
<Name>virtserv\sales</Name>
<Package>virtserv</Package>
</Instance>
<Instance>
<Name>customer</Name>
<Package>customer</Package>
</Instance>
</Application>
</APMClusterConfiguration>
```

リソースグループごとに複数のインスタンスを監視するには、以下のようにファイルを修正します。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
<Application>
<Name>dbspi_sapsybasease</Name>
<Instance>
<Name>sales1,sales2</Name>
<Package>virtserv</Package>
</Instance>
</Application>
</APMClusterConfiguration>
```

さらに、開始コマンドまたは停止コマンドを `dbspisybcol` に変更します。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
<Application>
<Name>dbspi_sapsybasease</Name>
...
<StartCommand>dbspisybcol ON $instanceName</StartCommand>
<StopCommand>dbspisybcol OFF $instanceName</StopCommand>
</Application>
</APMApplicationConfiguration>
```

2. リソースグループ内のすべての物理ノードで、次のファイルを以下のディレクトリに保存します。

   `apminfo.xml`

   Windows オペレーティングシステムのノード:

   `%OvDataDir%conf\conf\`

   UNIX または Linux オペレーティングシステムのノード:

   `$OvDataDir/conf/conf/`

   > **注:** これらのディレクトリはデフォルトでは存在しません。ファイルを初めて作成する場合は、これらのディレクトリを手動で作成する必要があります。BSM サーバからノードにファイルを移送する特別な配布メカニズムはありません。通常、ファイルはすべてのノードに手動でインストールされます。エントリを追加するマージメカニズムはありません。手動で更新する必要があります。

3. 各物理ノードで、コマンド `ovappinstance` を使用してファイルの構文と設定を確認します。

   32 ビット Windows オペレーティングシステムのノード:

   ```
   %OvInstallDir%\bin\ovappinstance -vc
   ```

   UNIX または Linux オペレーティングシステムのノード:

   ```
   $OvInstallDir/bin/ovappinstance -vc
   ```

4. ファイルを物理ノードにコピーした後に、HP Operations Agent を停止し再起動します。

   エージェントを停止するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   ovc -stop
   ```

   エージェントを再起動するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   ovc -start
   ```

高負荷な SQL 文の数を監視するための MDA テーブルのインストール(メトリック 2043 の設定)

この項では、高負荷な SQL 文の数を監視するためのメトリック 2043 の設定について説明します。

2043 メトリックは、テーブル monSysStatement を使用します。MDA (監視および診断) テーブルは、手動で Sybase ASE サーバにインストールする必要があります。`sa` ユーザなどの SAP Sybase ASE ユーザには、**`mon_role`** の権限が必要です。以下に示すいくつかの監視パラメータを、`sp_configure` を使用して設定する必要があります。

ここでは例として、HP-UX プラットフォーム上で Sybase バージョン 15.7 の特殊な環境を設定する場合を考えます。

注: Sybase で特殊な環境を設定する手順は、バージョンやプラットホームにより異なります。使用している Sybase のバージョンやプラットフォームが異なる場合は、MDA テーブルのインストールや設定に関する Sybase のドキュメントを参照してください。

注: デフォルトでは、[高負荷な SQL 文の数の頻度] パラメータが NORUN に設定されているため、2043 メトリックは監視されません。2043 メトリックを使用して高負荷な SQL 文の数を監視する場合は、次のタスクを実行し、[高負荷な SQL 文の数の頻度] パラメータの値を設定する必要があります。

タスク 1: Sybase サーバへの接続と設定パラメータの確認

1. Sybase ASE サーバに Sybase ユーザとして接続し、コマンド プロンプトで次のコマンドを実行します。

   ```
   $SYBASE/$SYBASE_OCS/bin/isql -Usa -P<Password> -S<Server>
   ```

2. パラメータ `enable cis` が 1 に設定されているかどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   sp_configure 'enable cis'
   go
   ```

3. パラメータの値が 1 に設定されていない場合は、次のコマンドを実行します。

   ```
   sp_configure 'enable cis', 1
   go
   ```

タスク 2: ループバック サーバ名のエイリアスの追加

ループバック サーバ名を追加するには、次のコマンドを実行します。

```
use master
go
sp_addserver loopback, null, @@servername
go
```

タスク 3: MDA テーブルのインストール

MDA テーブルをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
isql -U sa -P <yourpassword> -S <YourServerName> –i $SYBASE/$SYBASE_
ASE/scripts/installmaster
```

ここで、SYBASE は Sybase のインストール ディレクトリです。

SYBASE_ASE は、Sybase のインストール ディレクトリ内の ASE サーバ ディレクトリです。

タスク 4: MDA アクセスが許可されたログインへの `mon_role` の割り当て

`sa` ユーザに権限を付与するには、次のコマンドを実行します。

```
use master
```

```
go
grant role mon_role to sa
go
```

タスク 5: 設定パラメータの有効化

設定パラメータを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
sp_configure "enable monitoring", 1
go
sp_configure "sql text pipe active", 1
go
sp_configure "sql text pipe max messages", 100
go
sp_configure "plan text pipe active", 1
go
sp_configure "plan text pipe max messages", 100
go
sp_configure "statement pipe active", 1
go
sp_configure "statement pipe max messages", 100
go
sp_configure "errorlog pipe active", 1
go
sp_configure "errorlog pipe max messages", 100
go
sp_configure "deadlock pipe active", 1
go
sp_configure "deadlock pipe max messages", 100
go
sp_configure "wait event timing", 1
go
sp_configure "process wait events", 1
go
sp_configure "object lockwait timing", 1
```

```
go
sp_configure "SQL batch capture", 1
go
sp_configure "statement statistics active", 1
go
sp_configure "per object statistics active", 1
go
sp_configure "max SQL text monitored", 2048
go
```

Sybase サーバを再起動します。

タスク 6: 基本的な MDA 設定のテスト

基本的な MDA 設定をテストするには、次のコマンドを実行します。

```
select count(*) from master..monSysStatement
go
```

Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定

この項では、Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定について説明します。

> **注:** 次の設定が必要になるのは、Solaris プラットフォーム上で管理対象ノードを監視するのに使用する OMi MP for SAP Sybase ASE のみです。

OMi MP for SAP Sybase ASE で Solaris プラットフォーム上の管理対象ノードを監視するには、エージェント ユーザとして次の手順を使用し、XML パーサ Perl モジュールで使用する `Expat.so` ライブラリで必要なすべてのライブラリの動的依存関係を解決できるようにする必要があります。

1. `Expat.so` ライブラリを見つけるには、次のコマンドを実行します。

   ```
   cd /opt/OV/nonOV/perl/a/lib
   find .-name Expat.so
   ```

2. 動的依存関係のリストを見つけるには、次のコマンドを実行します。

   ```
   Go to <Expat.so> path
   ldd Expat.so
   ```

libgcc_s.so で「ファイルが見つかりません」というエラーメッセージが表示される場合は、次のステップ3を実行し、Solaris 管理対象ノードの SYBMP_LIBPATH 環境変数で libgcc_s.so ライブラリパスを設定します。

3. 次の手順を実行し、root ユーザとして SYBMP_LIBPATH 環境変数の libgcc_s.so ライブラリパスを設定します。

   a. 次のコマンドを使用して、Solaris 管理対象ノードで libgcc_s.so を検索します。

      ```
      find / -name libgcc_s.so
      ```

   b. 次のコマンドを使用して、32 ビットの libgcc_s.so を検索します。

      ```
      file <libgcc_s.so とパス>
      ```

   c. Solaris 管理対象ノードに 32 ビットの libgcc_s.so がインストールされていない場合は、GCC ランタイムライブラリパッケージをインストールします。

   d. 次のコマンドを使用して、vi エディタで /etc/profile を開きます。

      ```
      vi /etc/profile
      ```

   e. /etc/profile ファイルの先頭に次の行を追加します。

      ```
      SYBMP_LIBPATH=<32-bit libgcc_s.so path>
      export SYBMP_LIBPATH
      ```

      注: 32-bit libgcc_s.so のパスは、ステップ 2 で取得した結果です。

   f. ファイルを保存します。

第3章: 作業の開始

この項では、SAP Sybase ASE アプリケーション サーバを監視し、BSM および OMi のイベントおよび状況パースペクティブを表示するための OMi MP for SAP Sybase ASE の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「BSM コンソールでの作業の開始」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「OMi コンソールでの作業の開始」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

この項では、OMi MP for SAP Sybase ASE を使用した OMi MP for SAP Sybase ASE サーバの監視に必要なタスクについて説明します。また、イベント パースペクティブ、状況パースペクティブ、パフォーマンス パースペクティブを使用して、SAP Sybase ASE サーバ構成アイテム (CI) のステータスと状況を分析することもできます。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: 監視対象の Sybase データベース サーバがすでに Smart Plug-in (SPI) for Sybase Databases で監視されている場合は、まず、Sybase データベース サーバをホストしている管理ノードから SPI アーティファクトとデータ ソースを削除します。

注: ランタイム サービス モデル (RTSM) にノードがすでに存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、次の手順を実行し、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

   [管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. **[ノード ビュー]** ペインで **[事前定義済みのノード フィルタ]** > **[モニタ対象ノード]** をクリックし、 をクリックしてから、**[Computer]** > **[Windows]** または **[UNIX]** をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが開きます。

3. [プライマリ DNS 名] を指定し、[IP アドレス] を確認します。

4. ノードの [オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] をドロップダウンリストから指定し、**[OK]** をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。

> **注:** Operations Agent が稼働するノードは、HP OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: エンリッチメント ルールの有効化

エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。

   [管理] > **[RTSM 管理]** > **[モデリング]** > **[エンリッチメント マネージャ]**

2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから **[SoftwareElementDisplayLabelForNewHost]** を選択します。

3. 右クリックして **[プロパティ]** を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。

4. **[次へ]** をクリックします。

5. **[ルールを有効にする]** を選択します。

6. **[完了]** をクリックします。

7. [エンリッチメント ルール] ペインで、をクリックして変更を保存します。

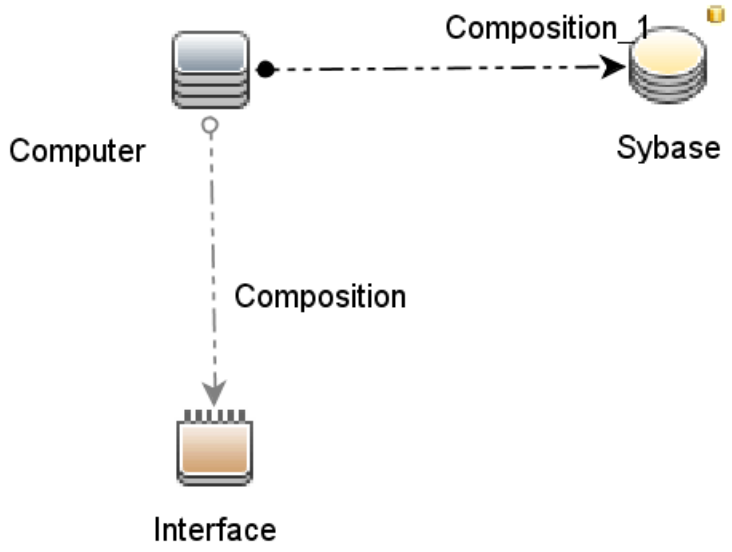
タスク 3: SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイ

> **注:** SAP Sybase ASE サーバ CI が既に検出されている場合、このステップをスキップしてタスク 4 に進むことができます。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトにより、環境内の SAP Sybase ASE サーバインスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の SAP Sybase ASE CI と SAP Sybase Replication Server CI の両方を検出するには、SAP Sybase ASE 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイメントにより、次の CI タイプ (CIT) の構成アイテム (CI) が検出されます。

- Sybase (SAP Sybase ASE サーバと SAP Sybase Replication Server の両方が同じ CI で識別されます)
- Computer



SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP Sybase ASE]** > **[アスペクト]**

3. 次のいずれかの方法で、アスペクトの割り当てとデプロイを行います。[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、次を選択します。

   - **[SAP Sybase ASE 検出]** アスペクトを選択し、をクリックします。
   - **[SAP Sybase ASE 検出]** アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。

     [割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで、必要な管理対象ノード CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. (オプション)**[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックします。

   > **注:** SAP Sybase ASE 検出アスペクトには必須パラメータはありません。次の内容の通知が表示されます。「この割り当てには編集が必要なパラメータはありません。」

6. (オプション)**[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックします。

注: SAP Sybase ASE 検出アスペクトにはパラメータはありません。次の内容の通知が表示されます。「この割り当てに使用できるパラメータはありません。」

7. (オプション)割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

注: SAP Sybase ASE アスペクトがデプロイされると、次のメッセージが表示されます。「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク 4: 検出の確認

SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されていることを確認する必要があります。

[Top View] に CI を表示するには、次の手順を実行します。

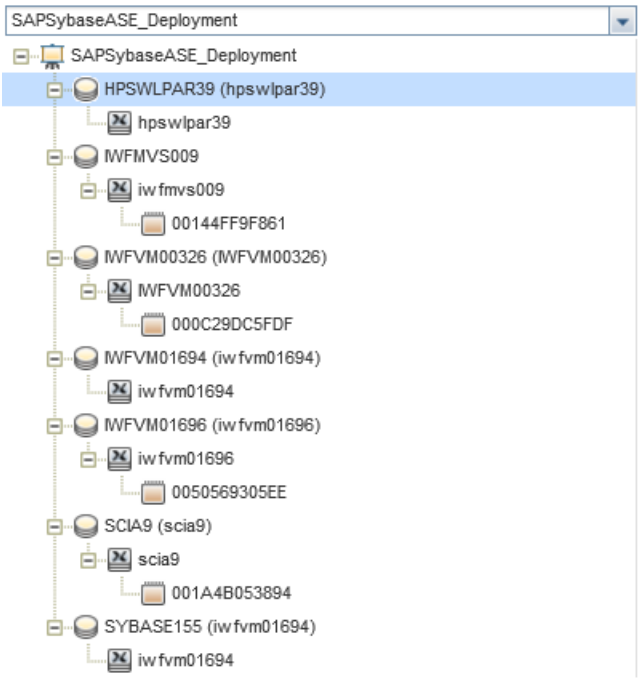
1. **[アプリケーション]** > **[Operations Manager]** > **[Event Perspective]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** タブで **SAPSybaseASE_Deployment** ビューを選択します。以下の図が表示されます。

検出された CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. **[アプリケーション]** > **[Operations Manager]** > **[Event Perspective]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** タブで **SAPSybaseASE_Deployment** ビューを選択します。



タスク5: root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けの OMi MP for SAP Sybase ASE の設定

root 以外のユーザで Operations Agent を実行する UNIX ノードでは、上記のタスクに加えて、次のタスクを実行する必要があります。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイした後に、次の手順を実行する必要があります。

1. root ユーザとして `/var/opt/OV/bin/instrumentation` で次のスクリプトを実行します。

   ```
   # dbspisyb_perl dbspisyb_root.pl
   ```

   `/var/opt/OV/conf/dbspisyb.su` が作成されます。

2. root ユーザで `dbspisyb.su` ファイルを開き、次の行のコメントを解除するか、次の形式で新しい行を追加します。<ユーザ>:<コマンド>

   ```
   root:<SYBINSTPATH>/startserver -f <SYBINSTPATH>/RUN_<SVRNAME>
   ```

   ここで、`<SYBINSTPATH>` は SAP Sybase ASE のインストールパスです。

タスク6: SAP Sybase ASE 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、管理テンプレートまたはアスペクトを OMi MP for SAP Sybase ASE CI にデプロイできます。管理テンプレートのデプロイの詳細は、「タスク6a:SAP Sybase ASE 管理テンプレートのデプロイ」を、アスペクトのデプロイの詳細は、「タスク6b: OMi MP for SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ」を参照してください。

Monitoring Automation for Server ライセンスを使用している場合、アスペクトをデプロイできます。アスペクトのデプロイの詳細は、「タスク6b:SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ」を参照してください。

タスク6a: SAP Sybase ASE 管理テンプレートの特定とデプロイ

SAP Sybase ASE 管理テンプレートをデプロイする前に、次に示すように、それぞれの環境に適した SAP Sybase ASE 管理テンプレートを特定する必要があります。

- SAP Sybase ASE サーバで主要なパフォーマンスと可用性に関するメトリックを監視する場合は、**基本 SAP Sybase ASE 管理テンプレート**をデプロイします。
- 主要なパフォーマンスと可用性とともに、ネットワークパケットや並列処理などの詳細機能を監視する場合は、**詳細 SAP Sybase ASE 管理テンプレート**をデプロイします。

SAP Sybase ASE 管理テンプレートを SAP Sybase ASE サーバ CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP Sybase ASE] > [管理テンプレート]

3. SAP Sybase ASE の [管理テンプレート] フォルダで、デプロイする管理テンプレートを選択し、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、必要なパラメータの詳細を入力するには、次の手順を実行します。

   a. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンスユーザ名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンスユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

   b. **[値]** をクリックし、ユーザ名を入力します。**[OK]** をクリックします。

c. **[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

d. **[値]** をクリックし、**[パスワード]** フィールドに値を入力します。

e. **[パスワードの確認]** フィールドに同じパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

f. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

6. (オプション) **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。

a. **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンス パラメータの編集] ウィンドウが開きます。

b. リストでパラメータを選択してをクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

> **注:** **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

> **注:** 同じように、**[SAP Sybase ASE エラー ログの頻度]** パラメータも編集できます。

c. **[次へ]** をクリックします。

7. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェック ボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ

SAP Sybase ASE アスペクトを SAP Sybase ASE CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP Sybase ASE]** > **[アスペクト]**

3. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** フォルダでデプロイするアスペクトを選択し、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。

   または、デプロイする SAP Sybase ASE アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトをデプロイする **Sybase** CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

   > **注:** アスペクトをノード CI にデプロイする場合は、**[タイプノードの CI も表示する]** チェックボックスを選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、次の手順を実行して必須パラメータを指定する必要があります。

   a. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス名] ダイアログボックスが開きます。

   b. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。

   c. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンスユーザ名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンスユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

   d. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。

   e. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンスパスワード]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンスパスワード] ダイアログボックスが開きます。

   f. **[値]** をクリックし、**[パスワード]** フィールドに値を入力します。

   g. **[パスワードの確認]** フィールドに同じパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

   h. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

6. (オプション)**[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。変更しない場合は、**[次へ]** をクリックします。

   パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。

   a. **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンスパラメータの編集] ウィンドウが開きます。

   b. リストでパラメータを選択してをクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

   > **注: [すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータと

> して定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

c. **[次へ]** をクリックします。

7. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

タスク 7: OMi MP for SAP Sybase ASE デプロイメントの確認

管理対象ノードに OMi MP for SAP Sybase ASE がデプロイされているのを確認するには、次の手順を実行します。

1. **[アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[View Explorer]** > **[ビューの参照]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** ペインでノードを右クリックし、**[ツールを起動]** をクリックします。[ツールの選択] ページが開きます。

3. **[SAP Sybase ASE Management Pack のデプロイメントの確認]** ツールを選択し、**[ツールの実行]** をクリックします。

タスク 8: root 以外のエージェント ユーザ用の SAP Sybase ASE エラー ログ監視の設定

デフォルトで、root 以外のエージェント ユーザには、Sybase サーバのエラー ログファイルを読み取る権限がありません。エラー ログファイルを監視できるように読み取り権限を設定するには、次の手順を実行します。

1. Management Pack で検出および監視される SAP Sybase ASE サーバのエラー ログを特定するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   /var/opt/OV/bin/instrumentation/dbspicas -l
   ```

   エラー ログファイル名が表示されます。

2. 非 root ユーザにエラー ログファイルに対する読み取り権限を付与するには、Sybase ユーザとして次のコマンドを実行します。

   ```
   chmod +r <Sybase-error-logfile>
   ```

OMiコンソールでの作業の開始

この項では、OMi MP for SAP Sybase ASE を使用した SAP Sybase ASE サーバの監視に必要なタスクについて説明します。また、イベント パースペクティブ、状況パースペクティブ、パフォーマンス パースペクティブを使用して、SAP Sybase ASE 構成アイテム (CI) のステータスと状況を分析することもできます。

タスク1: OMiコンソールへのノードの追加

注: 監視対象の SAP Sybase ASE サーバがすでに Smart Plug-in (SPI) for Sybase Databases で監視されている場合は、まず、SAP Sybase ASE サーバをホストしている管理対象ノードから SPI アーティファクトとデータソースを削除します。

注: ランタイム サービス モデル (RTSM) にノードがすでに存在する場合、このステップをスキップしてタスク2に進むことができます。

監視を始める前に、次の手順を実行し、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

   [管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. **[ノード ビュー]** ペインで **[事前定義済みのノード フィルタ]** > **[モニタ対象ノード]** をクリックし、 をクリックしてから、**[Computer]** > **[Windows]** または **[UNIX]** をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが開きます。

3. [プライマリ DNS 名] を指定し、[IP アドレス] を確認します。

4. ノードの [オペレーティング システム]、[プロセッサ アーキテクチャ] をドロップダウン リストから指定し、**[OK]** をクリックします。

新規に作成されたノードが CI インスタンスとして RTSM に保存されます。

注: Operations Agent が稼働するノードは、HP OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク2: エンリッチメント ルールの有効化

エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。

   [管理] > **[RTSM 管理]** > **[モデリング]** > **[エンリッチメント マネージャ]** をクリックします。

2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから **[SoftwareElementDisplayLabelForNewHost]** を選択します。

3. 右クリックして **[プロパティ]** を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。

4. **[次へ]** をクリックします。

5. **[ルールを有効にする]** を選択します。

6. **[完了]** をクリックします。

7. [エンリッチメント ルール] ペインで、をクリックして変更を保存します。

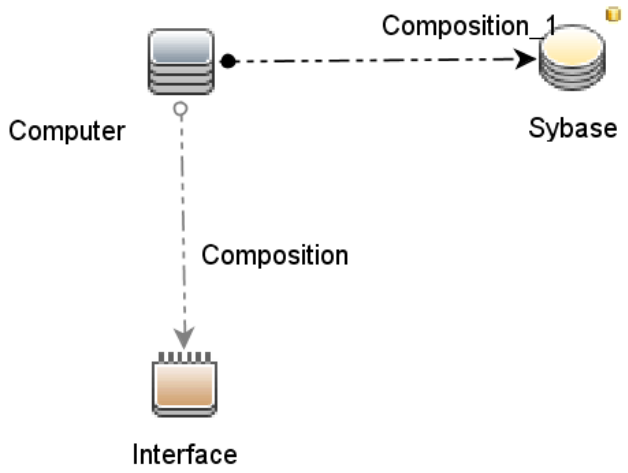
タスク 3: SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイ

注: SAP Sybase ASE CI が既に検出されている場合、このステップをスキップしてタスク 4 に進むことができます。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトにより、環境内の SAP Sybase ASE サーバインスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の SAP Sybase ASE CI と SAP Sybase Replication Server CI の両方を検出するには、SAP Sybase ASE 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトのデプロイメントにより、次の CI タイプ (CIT) の構成アイテム (CI) が検出されます。

- Sybase (SAP Sybase ASE サーバと SAP Sybase Replication Server の両方が同じ CI で検出されます)
- Computer



SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP Sybase ASE]** > **[アスペクト]**

3. 次のいずれかの方法で、アスペクトの割り当てとデプロイを行います。[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、次を選択します。
   - **[SAP Sybase ASE 検出]** アスペクトを選択し、をクリックします。
   - **[SAP Sybase ASE 検出]** アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。

   [割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで、必要な管理対象ノード CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. (オプション)**[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックします。

   注: SAP Sybase ASE 検出アスペクトには必須パラメータはありません。次の内容の通知が表示されます。「この割り当てには編集が必要なパラメータはありません。」

6. (オプション)**[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックします。

   注: SAP Sybase ASE 検出アスペクトにはパラメータはありません。次の内容の通知が表示されます。「この割り当てに使用できるパラメータはありません。」

7. (オプション)割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

注: SAP Sybase ASE アスペクトがデプロイされると、次のメッセージが表示されます。「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

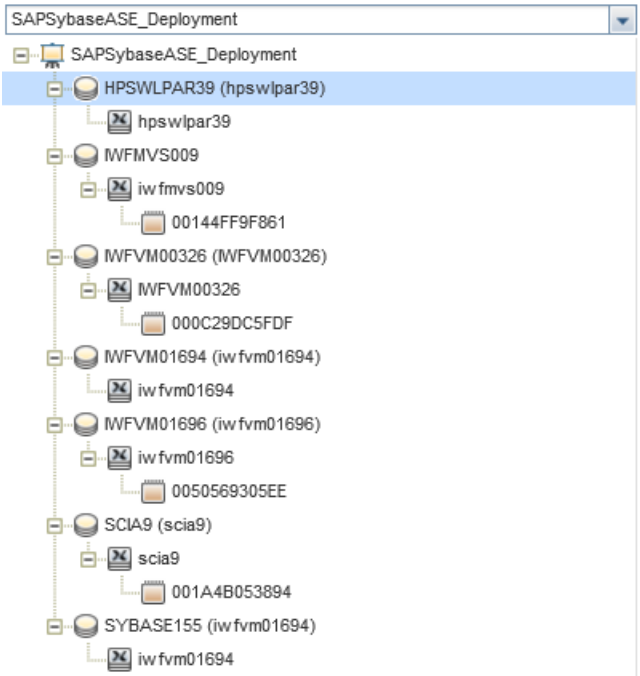
タスク 4: 検出の確認

SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されていることを確認できます。

検出された CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. **[ワークスペース]** > **[操作コンソール]** > **[Event Perspective]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** タブで **SAPSybaseASE_Deployment** ビューを選択します。以下の図が表示されます。



タスク5: root 以外のユーザが実行する HP Operations Agent 向けの OMi MP for SAP Sybase ASE の設定

root 以外のユーザで Operations Agent を実行する UNIX ノードでは、上記のタスクに加えて、次のタスクを実行する必要があります。

SAP Sybase ASE 検出アスペクトをデプロイした後に、次の手順を実行する必要があります。

1. root ユーザとして `/var/opt/OV/bin/instrumentation` で次のスクリプトを実行します。

   ```
   # dbspisyb_perl dbspisyb_root.pl
   ```

   `/var/opt/OV/conf/dbspisyb.su` が作成されます。

2. root ユーザで `dbspisyb.su` ファイルを開き、次の行のコメントを解除するか、次の形式で新しい行を追加します。<ユーザ>:<コマンド>

   ```
   root:<SYBINSTPATH>/startserver -f <SYBINSTPATH>/RUN_<SVRNAME>
   ```

   ここで、`<SYBINSTPATH>` は SAP Sybase ASE のインストールパスです。

タスク6: SAP Sybase ASE 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、管理テンプレートまたはアスペクトを SAP Sybase ASE CI にデプロイできます。管理テンプレートのデプロイの詳細は、「タスク6a:SAP Sybase ASE 管理テンプレートの特定とデプロイ」を、アスペクトのデプロイの詳細は、「タスク6b:SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ」を参照してください。

Monitoring Automation for Server ライセンスを使用している場合、アスペクトをデプロイできます。アスペクトのデプロイの詳細は、「タスク6b:SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ」を参照してください。

必要なユーザ権限

SAP Sybase ASE サーバを監視するには、資格情報を持つユーザに次の権限を付与します。システム管理者 (sa)

タスク6a: SAP Sybase ASE 管理テンプレートの特定とデプロイ

SAP Sybase ASE 管理テンプレートをデプロイする前に、次に示すように、それぞれの環境に適した SAP Sybase ASE 管理テンプレートを特定する必要があります。

- SAP Sybase ASE サーバで主要なパフォーマンスと可用性に関するメトリックを監視する場合は、基本 SAP Sybase ASE 管理テンプレートをデプロイします。

- 主要なパフォーマンスと可用性とともに、ネットワークパケットや並列処理などの詳細機能を監視する場合は、詳細 SAP Sybase ASE 管理テンプレートをデプロイします。

SAP Sybase ASE 管理テンプレートを SAP Sybase ASE CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP Sybase ASE]** > **[管理テンプレート]**

3. SAP Sybase ASE の [管理テンプレート] フォルダで、デプロイする管理テンプレートを選択し、 **[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、必要なパラメータの詳細を入力するには、次の手順を実行します。

   a. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

   b. **[値]** をクリックし、ユーザ名を入力します。**[OK]** をクリックします。

   c. **[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード] ダイアログボックスが開きます。

   d. **[値]** をクリックし、**[パスワード]** フィールドに値を入力します。

   e. **[パスワードの確認]** フィールドに同じパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

   f. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。

6. (オプション)**[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。

   a. **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンス パラメータの編集] ウィンドウが開きます。

   b. リストでパラメータを選択してをクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

   > **注: [パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

> **注:** 同じように、**[SAP Sybase ASE エラー ログの頻度]** パラメータも編集できます。

c. **[次へ]** をクリックします。

7. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: SAP Sybase ASE アスペクトのデプロイ

SAP Sybase ASE アスペクトを SAP Sybase ASE CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

   [管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

   [構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP Sybase ASE]** > **[アスペクト]**

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] フォルダでデプロイするアスペクトを選択し、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックします。

   または、デプロイする SAP Sybase ASE アスペクトを右クリックし、**[項目の割り当てとデプロイ]** をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトをデプロイする **Sybase** CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。

   > **注:** アスペクトをノード CI にデプロイする場合は、**[タイプ ノードの CI も表示する]** チェックボックスを選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、次の手順を実行して必須パラメータを指定する必要があります。

   a. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス名] ダイアログボックスが開きます。

   b. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。

   c. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンス ユーザ名]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

   d. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。

e. リストの **[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード]** パラメータを選択し、をクリックします。[SAP Sybase ASE インスタンス パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

f. **[値]** をクリックし、**[パスワード]** フィールドに値を入力します。

g. **[パスワードの確認]** フィールドに同じパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

h. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。

6. (オプション)**[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を変更できます。変更しない場合は、**[次へ]** をクリックします。

   パラメータのデフォルト値を変更するには、次の手順を実行します。

   a. **[SAP Sybase ASE インスタンス名]** パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンス パラメータの編集] ウィンドウが開きます。

   b. リストでパラメータを選択してをクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

   > **注:** **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

   > **注:** 同じように、**[SAP Sybase ASE エラー ログの頻度]** パラメータも編集できます。

   c. **[次へ]** をクリックします。

7. (オプション)**[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェック ボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

8. **[完了]** をクリックします。

タスク 7: OMi MP for SAP Sybase ASE のデプロイメントの確認

管理対象ノードに SAP Sybase ASE がデプロイされているのを確認するには、次の手順を実行します。

1. **[ワークスペース]** > **[操作コンソール]** > **[Event Perspective]** > **[View Explorer]** > **[ビューの参照]** をクリックします。

2. **[ビューの参照]** タブでノードを右クリックし、**[ツールを起動]** をクリックします。[ツールの選択] ページが開きます。

3. **[SAP Sybase ASE Management Pack のデプロイメントの確認]** ツールを選択し、**[ツールの実行]** をクリックします。

タスク 8: root 以外のエージェント ユーザ用の SAP Sybase ASE エラー ログ監視の設定

デフォルトで、root 以外のエージェント ユーザには、SAP Sybase ASE サーバのエラー ログ ファイルを読み取る権限がありません。エラー ログ ファイルを監視できるように読み取り権限を設定するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、監視する SAP Sybase ASE サーバ アラート ログを特定します。

   ```
   /var/opt/OV/bin/instrumentation/dbspicas -l
   ```

   エラー ログ ファイル名が表示されます。

2. 非 root ユーザにエラー ログ監視に対する読み取り権限を付与するには、Sybase ユーザとして次のコマンドを実行します。

   ```
   chmod +r <Sybase-error-logfile>
   ```

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for SAP Sybase ASE 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。